# ４月定例記者会見　会見録

平成 31 年(2019 年) 4 月 4 日（木）11:00～11:45　庁議室

**質疑応答**

**■こどもの青い羽根基金について**

**記者**

青い羽根基金についてお伺いします。市として、目標額はいくらということを定めてらっしゃるんでしょうか。またこれ基金という名称なんですけれども、まず基金を作って利息などで運用するというパターンと、それからもう集まった基金をどんどん毎年はき出していくというパターンと両方あると思っているんですけれども、この基金はどのような形で運用していくのでしょうか。

**市長**

明確な目標額というのは、まだ決めておりません。やはり、一人でも多くの方にまず知っていただくことが大事かなと考えております。どのような形で使うかも、当然集まる金額によって、出し方というのは変わっていくと思います。ただいたずらに長く持っているということでは、こどものために役立ちませんので、それは集まる状況を見ながら、どのような形で使えるかを随時検討していきます。

**記者**

補足でお伺いします。市として、元になるお金というものを充当する部分はあるんですか。基金という名前になっているので。

**市長**

ありません。

**■ＳＤＧｓパートナーズの発足について**

**記者**

SDGs パートナーズについて伺います。このような形でメンバーを募った後、何をするかということが課題だと思うんですけれども、こういう方たちを巻き込んでどういう事業をされたいと思っていますか。

**市長**

この辺は、その部分から一緒に作っていきたいと思っているところです。先日リディラバと連携協定を結びまして、その時も少しお話をしましたが、何が課題かということを、一緒に考えていくところからのスタートというのが重要だと思っています。もちろん市政にはいくつかの明確な課題があり、市民が主体となって動く部分で、どのようなテーマ設定がいいかということを、これから協議をして作っていきたいと思っています。おそらく、プロジェクトベースで、まずは見えやすい形のものから始めていくことになると思います。

**■こどもの青い羽根基金について**

**記者**

青い羽根基金について伺います。明確な目標額が決めていないということだったんですが、市民から寄附を募るということですが、どのような形で呼びかけをしていくのか、どんな対象者に呼びかけていくのかなどの具体策はどうなっていますか。

**市長**

１つ目には、これから区会の皆さんとご相談をしますが、これまでも区会の総会、連合会の総会等では、「こういう基金を作りたいと思っていますので、できた際は是非ご協力をお願いします」ということを言い続けてきました。今回は具体的な制度ができましたので、今後、各地区の総会で、直接お願いしたいと考えています。

２つ目は、今後 SDGs パートナーズが発足したことに伴って、多くの皆様に呼びかけをしていき

たいと思います。例えば、今年の賀詞交換会でこのパートナーズについて、ご協力のお願いをも出しましたところ、多くの方が「是非やりたいので具体的な制度できたら教えて欲しい」というようなお話をいただきました。まずはそのような皆さんにご案内して、パートナーズとともに青い羽根基金に寄附いただくような形からスタートしていきたいと思っています。そこから先の広がりというのも様々考えられると思います。初めてのことですので、いろいろ試行錯誤しながら取り組んでいきたいと思っています。

**記者**

区会の総会予定だったり、そのあたりは具体的には決まっていらっしゃいますか。説明に市長がいらっしゃるのですか。

**市長**

はい、各地区で旧六町村がありまして、各六地区の連合会の役員の皆さんが集まる総会がありますので、全地区私が行って話をしたいと思います。4月の再来週と次の週くらいにあります。

**記者**

現在基金のの充当先として3点大きく挙げられていますけれども、基金がどれくらい集まるかというところにもよると思います。優先順位であったり、何からやっていくのか、どこに力を入れていくのか、改めてご説明お願いします。

**市長**

この3つの中での優先順位というのは、特にありません。どれも重要なものだと思っています。やはり金額を見ながら、どうやって分配していくのかを考えていきます。

**記者**

おおよそどれくらいかかるかという予算規模は想定していますか。

**市長**

これも規模の問題になってきますので、それぞれの事業予算については、まだ詳細は出ておりません。

**記者**

例えば学習支援事業であったり、こども食堂への自治体による支援であったりなど、対象人数が決まっているものもあると思います。どれぐらい必要かというのはある程度算出されていますか。

**市長**

担当から説明しますが、当初予算で上がっている部分、そして、プラスアルファということになると思います。部長からお願いします。

**保健福祉部長**

保健福祉部長です。今年度の予算としましては、学習支援は 2,500 万円、こども食堂は 50 万円、学習塾代の方は 90 万円という予算を計上しまして、それぞれの積算はありますけれども、そういったのがどれだけ実際に事業者の方がやっていただけるかとか、ニーズがあるか、というところを見ながら、予算とも連動しながら、その基金のお金を使っていきたいという風に考えています。

**記者**

青い羽根基金の関係ですが、１つ目として３つ支出先があるのですが、経済的に困難を抱えるこどもを対象にした「こども学習支援事業」は、こどもに直接支出するものなのか、それとも、学習支援事業を運営している団体への支出なのか、また塾代もこども・保護者に対するものなのか、それとも学習塾を運営されている方に出すものなのか、ということ。また２つ目として先ほど予算額の説明あったんですけれども、これは基金そのものを歳入予算として市が計上して、市が支出プラスアルファ基金で賄うという趣旨なのか、それともさっきお答えいただいた 2,500 万とか

90 万というのは、これはあくまで基金から出すっていうことだけを前提としているものなのかということ。2 点を確認したいです。

**保健福祉部長**

まず 2 点目ですが、基金だけといいますか、その枠を用意しておりますので、今は予算額といいますか、市としてこういった規模で事業をやりたいということを考えているわけで、そこの中には当然この寄附としていただいたお金も入れていくと、この寄附だけで今の申し上げた数字、金額を賄うというところまでは、ちょっといかないかなとは思いながらも、是非寄附をお願いしたいと思っております。1 点目の学習支援は、この事業を実施する団体に対しての補助という形、委託のお金になると思いますし、塾代の方は、本人、保護者宛てに出すわけですけれども、実際上はそれを塾代の領収書と引き替えといいますか、確認しながらやりますので、結局は塾の方に後払いをしたというようなそんな形でございますので、ちょっと捉え方のご判断はお任せします。後はこども食堂の場合は、団体に対してお支払いをするという、そんな予定にしております。

**記者**

予算額としては一応とってあって、絶対ないと思いますけれども、全く全然実入りがない場合にも、2,500 万円は支出する、例えば 100 万円しか寄附がなかったとして、この青い羽根、学習支援は、経済的に困難なこどもの支援っていうのは 2,500 万円計上されていますけれども、100 万円しかなかったら残り 2,400 万は市から出すと考えていいですか。

**保健福祉部長**

基本的にはそういうことです。当然予算は全てが順調にいった場合のことですので、それぞれ各事業とも実際やられる方、事業者の方、一方でお子さんたちもいますので、状況によって変わってくるということで、確定というよりか、その範囲の中で流動的にやっていくということを前提としまして、それにこの寄附金の部分も当然加わっていくような形になりますので、ちょっと金額の規模感も含めてまだ見えていないところで寄附の状況も分からないので、そこはご寄附をい

ろいろとお願いをしながら、その中でどうやっていくのかというのをちょっと考えていければなという風に思っております。

**記者**

金額もあくまで今のところ目安的なもので、寄附額によって、それがものすごく膨らめばもっと上がるでしょうし、あまりにも少ないときは市からお金を出して事業を支えるとかそんなイメージですか。

**保健福祉部長**

その理解で結構です。

**記者**

青い羽根基金についてですが、市の予算プラスこういった基金から支出した、そういったものを組み合わせた事業を行うということなんですけれども、こういった皆さんからの寄附によって行う、プラス、市もそこに行政の事業を加えていくという事業で、こういった方式がどういったアピール効果がありますか、訴える効果があるという風にお考えか、市長のお考えをお聞かせください。

**市長**

SDGs で最も重要な部分、どれも重要なんですが、1 つには、やはり 1 番目にある「貧困」という問題。17 番目にあるのが、「パートナーシップ」。私が常々言っていますが、行政だけでできるということは極めて限られていますので、行政でなかなかやりきれない部分であったり、あるいは市民がやった方が柔軟に動ける部分であったりというのを、市民や企業とのパートナーシップで市政を進めていくというのが私の大前提の考え方です。今回期待している効果としてやはり大きいのは、その支援の枠組みを可視化できるということだと思っています。それは実際にこの場で金額面についてご質問をたくさんいただいていますが、私どもも今こうして青い羽根をつけてお

ります。この青い羽根をつけていく動きで、「こどもたちが今つくば市でもそういう苦しい状態にあるんだね、そういうのはみんなでサポートしていこうね」という、認識が広がっていくことを強く期待しています。私は挨拶の際、「こどもの貧困の問題」について触れることが多くあります。そのたびに「知らなかったと、そんなこどもは見たことなかった、そういう状態があるならなんとかしたい」などを、声かけしてくださる方が多いので、そういう皆さんに対して、このパートナーズになってもらう、あるいは青い羽根の基金にご寄附をいただくことによって、その支援をスタートしていただくという、まさに自分たちがその担い手となっていく大きなきっかけを作っていけるのではないかという期待感を持っています。

**記者**

ありがとうございました。当面はその３つの充当先があるということですが、将来的には他の新たな事業など、新たな使い道は模索していく予定はありますか。

**市長**

あまり皮算用をしてもよくないと思いますけれども、こどもの未来のための基金ですので、な様々な形が出てくるかもしれません。ただ、今はやはり経済的にとにかく苦しいこどもたちの経済格差が教育格差に繋がっていかないように、貧困の連鎖を断ち切るためにまず実行していくということをブレずにやっていきたいと思います。

**記者**

こども向けの基金というのは、このような青い羽根の基金は、全国では事例はあるのでしょうか。

**市長**

青い羽根基金という形では間違いなく全国で初めてだと思いますが、こどもに関する基金は、いくつかはあるのではないかと思います。担当で補足あれば説明してください。

**保健福祉部長**

いくつかということで、同じようなタイミングでやられている愛知県にもあるようで、過去にもたぶんどこかしらはあったのかもしれません。私どもはそんなに多数を知っているわけではありませんので、全国的にも珍しい取り組みだという認識をしております。

**記者**

寄附できるのは個人で、事業所とか例えば団体とか組織が寄附することはできるんでしょうか。

**市長**

事業所でも大丈夫です。

**記者**

わかりました。ありがとうございます。

**市長**

新聞社の皆さんでも大丈夫です。

**■ＳＤＧｓ未来都市つくばの地図について**

**記者**

ゼンリンの地図の件なんですけれども、この資料に「国内初となります」と書いてあるのですが、既に他の自治体でも発行しているという状況で、「国内初」という部分は、「サイズ」とか「発行部数」とかの話になってくるのでしょうか。

**市長**

ゼンリンさん。お願いしてよろしいですか。

**ゼンリン東京第二支社長**

全域の市全体の掛け枠が入った一番上のうちの縮尺になるんですけれども、この住宅地図情報を、それだけのレベルで発刊したのは全国でもないです。部分的に掛け枠を入れた地図と、それに加えて、今回つくば市様の全面協力をいただきまして、記事などもゼンリンが作ったのではなく、市と提携しながらということになりますので、市と協力体制ができて、これだけの地図情報をしかもこのＢ４サイズという大きなサイズで発刊したのは、全国でもありません。

**記者**

部分的にでもいいですけど、どのような部分がＰＲポイントですか。

**ゼンリン東京第二支社長**

部分的については、中心部だけを拡大、郊外が道路地図レベルの濃い地図、そういう組み合わせはどこにでもあるんですけど、今回は郊外だろうが中心部だろうが全部統一縮尺で、これ貼り合わせるとつくば市全体の地図が１枚で作れるように計画されております。こういった規格の地図提供は今までございません。

**記者**

他の自治体の例で言うと、その市街地の細かい家の形を記した中心市街地だけみたいなそういう地図はありますか。

**ゼンリン東京第二支社長(吉川様)**

あります。10 年前にも同じような規格で作ったんですが、その時は全域の小サイズがあるといいねっていうことになり、我々も 10 年間努力してやっと今回これが実現できたということになります。

**記者**

先ほどの規格で市の事業の SDGs など、様々な事業を掲載した地図っていうのはそれもこれまだないという感じですか。地図だけ。

**ゼンリン東京第二支社長**

ないです。

**■こどもの青い羽根基金について**

**記者**

こどもの青い羽根基金の件なんですけれども、よく通年各地で行われている赤い羽根とかあるいは緑の羽根とか、もちろん違うものだという特性だと思うのですが、例えば、10 円 20 円でも OK といった意味合いとは違ったものという理解でいいのか、それともそういったものからもうボックスに寄附してくださいという意味合いなのか、ある種の手軽さと言うと失礼ですけれども、そういった意味合いもあるのか、聞かせてください。

**市長**

はい、10 円でも、極端に言えば 1 円でも、やはり市民がそこに主体的に関わるということに大きな意義をおいていますので、それは歓迎をするものですね。

**記者**

その関連なんですが、使途とか方向性というのは、お書きになっている、あるいはご説明の通りなんですけれども、例えば今つくば市内で貧困などそういった類いで悩まれたり、あるいは相談を受けることがあるような背景、件数ですとか、そういうのがありましたらお聞かせください。

**市長**

はい、よく話している数字としては、「小中学生の学習のための就学支援を受けている、あるいは生活保護、準要保護の状態にあるこどもたち」が平成 30 年の 10 月で、この未来プランに書いて

ありますが、1219 人います。よって、こういう貧困状態にあるこどもたち、経済的に苦しいこどもたちに対してこのお金を有効に使っていきたいです。

**■つくばの地図について**

**記者**

つくばの地図についてなんですが、費用負担は市が負担したということでいいのか、それで、おいくらかかっているのでしょうか。

**市長**

市は負担をしておりません。ゼンリン様にご負担をいただいて、企業の協賛等をいただきながら、進めていただきました。かなりご負担はゼンリン様にあったんではないかと思いますが、いかがでしょうか。

**ゼンリン東京第二支社長**

ご覧の通りこれだけの冊子ですので、費用換算といいますか、原価換算でいくと、2,000 万から 3,000 万の間だとご理解いただければと思います。ただ今回、記事などつくば市に全面協力いただいて、編集の入力作業など協力していただいております。地図情報は、私どもが無償で提供という形で、加えて地元の企業の方に協力、スポンサーという形で、ご協力をいただいております。そこから印刷費用と配布費用は捻出をさせていただいております。

**■新元号について**

**記者**

ありがとうございます。続いて発表事項でないことを１つ、お伺いいたします。このほど新元号が決まりました。市長にお伺いしたいのですが、令和の時代のつくば市ということで、頭に浮かぶイメージがあるようでしたらおしゃっていただけますか。

**市長**

つくば市の将来のイメージは、常に「世界のあしたが見えるまち」です。世界中の自治体がまだ解決できていないものに対して市民が一緒になって、そして科学技術を使って、その解決のアプローチを作っていって、そのモデルを作っていく、令和の新時代においても、このヴィジョン実現のために一生懸命取り組んでいきたいと思っています。

**記者**

令和という言葉どういう印象をお持ちですか。

**市長**

響きとしては、非常に良い響きなんではないかと思っています。私自身はその元号というものに、どこまで、政治的な意味・個人的な意味というのを持たせて良いのかどうかというのは、どちらかといえば慎重なんですが、非常に良い響きですし、万葉集からとりながら中国の古典を踏まえているという中で、日本の文化、そしてその多様性等も含めて非常によく考えられた元号であると、そこを正直論評するのもおこがましいと思っておりますが、響きとしても、良い響きだなということは非常によく感じています。

**■日本エスコンのクレオ取得について・10 連休への対応について**

**記者**

先般、日本エスコンがクレオを取得されたということで年内に新しい施設を開業される準備を進めているという話ですが、市としてこれで完全にクレオはもう民間主導で進めるということになってしまったと思うんですが、これまでも同等かどうかわかりませんけれども、市として今後民間主導で進められるクレオに対してどのように関わっていくのですか。

あと 1 つ、別件なんですが、平成が終わって 5 月の 1 日から令和なんですけれども、10 連休という非常に長い期間の休みになって、例えば基本的には職員の方はお休みになると思うんですが、市民サービスが低下するからなどの理由で、手当てを出して出勤させる予定とか、あるいは元号

が変わって記念に結婚届を出したいという方もいらっしゃると思うんですが、そういったことを意識した対応は何かご検討されてますでしょうか。

**市長**

はい、まずクレオにつきましては、日本エスコンが取得をしました。その時にコメントも出しましたけれども、当然市の中核となる、顔となる施設ですので、つくば市が定めた街づくり、中心市街地のヴィジョンというものの実現に、ご協力を当然いただきたいと思っておりますし、先般もエスコン社に訪問してきましたが、そのようなことについてご理解いただきたいということはお伝えをしました。また、先方もそれはもちろんというようなことを話してくださいましたので、直接的に市が中に入るということはないと思いますけれども、いろんな協議をしながら、中心市街地を盛り上げていただきたいと思っております。10 連休につきましては、コミュニティ棟ができ、市役所は引っ越しがあります。経済部がこちらに帰ってきて庁内もそれに合わせてかなり大きく動きますので、職員はちょっと忙しくなってしまうところがあるんですが、市民窓口については、部内で検討しておりますので、お話を共有できるところはしてください。

**市民部**

市民部です。今回 10 連休ということで、窓口が大変混雑すると思っているんですが、まず窓口体制は、連休開けについては、市民の方にご迷惑にならないような形で万全に対応したいと思っています。そして、令和に伴う、記念の何かができないかということについては、現在まだ確定はしていませんが、何かできればいいかなと考えてはいるのですが、周辺の様々な情報を入手しながら、つくば市でどのような形で実施していくかは今後検討していきたいと思っています。

**記者**

特に 10 連休だからといって窓口に職員の方を出勤させるなどはお考えになってないってことですね。

**市民部**

はい、そうです。婚姻届は現在のとおり、休日にも預かることができます。ただし証明書を発行したりすることはできないので、通常の休日と同じ対応で今は考えているところです。

**■日本エスコンのクレオ取得について**

**記者**

日本エスコンのクレオの取得についてお伺いします。旧イオン棟にはマンションが建ってしまうという市長が懸念されたことだと思うんですけれども、市としては、中心市街地のマンションを規制するというお話もあったんですが、そこの進捗状況とか、もし報告できることがありましたら教えてください。

**市長**

一部には随分誤解があったようなんですけれども、住宅制限をかけることについては、当然建ってしまうものに関しては止められませんので、それについては、仕方ない部分なのかなと思っています。ただ今後、無秩序にマンションばかりが増えていくということは、決して中心市街地の活性化に資するものではないと思っていますので、今、担当課で、様々な事例の検討であったり、どういう形であればできるかを協議しているところです。

**記者**

具体的な区域とか、いつ頃に、例えば条例を作るとかは決まっていないのでしょうか。

**市長**

まだお話しできる段階ではないと思っています。

**記者**

分かりました。

**記者**

日本エスコンの人たちにも聞いた話によると、市で以前に計画していたと思うのですけど、公共施設やそういった機能をそこに入れていくということについては、今後どのようにお考えになっていますか。

**市長**

議会でもクレオの関与については断念をするということをお話していますし、基本的には商業施設ということでエスコン社も考えているわけですので、そのようなものになっていくのかなと思っています。併せて今センタービルについても市では様々なリニューアルを考えている段階で、基礎調査をしているところですが、その状況を含めて、公共施設なりがどういう形で入っていくのがいいかということを全体的に見ていきたいと思っています。

**記者**

日本エスコンは商業施設だけでなく、ビジネス利用、賃貸、そういったものを想定はされているということですけれども、そのあたりについては何か市として後押しする気はあるのでしょうか。

**市長**

私どもが以前聞いていた部分においては、やはり商業系にしたいという意向だということだったので、オフィスビルばかりになるということは必ずしも市民が望むものではないだろうと思っています。先般も基本的には商業施設中心と確認させていただいているところです。

**（終了）**